



QRコードから、各議員の質問の映像を見ることができます。

3日間12人の

R6
12
月定例会

個人質問

個人質問とは

八尾市の市政全般について、市民の代表として議員が市に対して説明を求めることや疑問について聞くことをいいます。

八尾市議会では、答弁を含まずひとり30分の持ち時間となっています。



大阪維新の会
稲森 洋樹



偏向報道をさせない
情報発信施策の強化

Q テレビ、新聞の偏向報道特性を踏まえ、正しい行政情報を発信するため、全庁的、一元的な取材対応が求められると考えるが市の見解は。

A 不意の取材に対するリスク管理、切り取り報道への対応を含め、見直しをかけていきたい。

Q 市民が市の公式見解等の一次情報にアクセスでき、知る権利に対応できるよう、記者会見映像等を市公式YouTubeチャンネルで公開すべきと考えるがどうか。

A 次期市政運営方針及び当初予算の記者会見に向け、早急に対応を検討したい。

Q 市の中心部から遠い地域において、期日前投票実施の需要は高い。民間商業施設で実施する際の課題は。

A 二重投票防止のためのオンライン設備や急な選挙等、全ての選挙で施設を使用できるかなど、費用面や従事する職員体制等が課題であると考えます。



公明党
五百井 真一



誰もが安心して
暮らせる体制整備を

Q 認知症の方やその家族が、住み慣れた地域で安心して生活していくため、認知症施策を推進することが重要である。市として認知症施策推進計画の策定をどう検討しているのか。

A 国が示す計画の内容については、おおむね第9期八尾市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画に盛り込んでいる。今後、次期計画の策定に合わせ、一体的に認知症施策推進計画の策定に取り組む予定である。

Q 複合化・複雑化した課題を抱える市民を支援するための重層的支援体制整備事業について、今後の展開や制度の拡充に関する見解は。

A 住宅確保要配慮者への居住支援などを進めていく。さらに、今後也包括的な相談支援体制を維持できるよう、分野横断的な連携や複合的な役割・機能を果たす体制の強化に取り組んでいく。

その他の質問項目
●投票しやすい環境整備の方向性

大阪維新の会
鑄方 淳治



避難所の環境改善に
向けた取り組みを

Q TKB48を普及促進するため、備蓄拠点を大幅に増設するなどプッシュ型支援強化を図る国の動きがあるが、市の見解は。また、酷暑期の避難所における暑熱対策として、スポットクーラーの分離使用など、設置方法を工夫すべきだがどうか。

A 国の防災・減災対策の動向を注視し、導入の可否を含め検討する。スポットクーラーの設置手法については、仕様や体育館の構造等を確認しながら検討していく。

Q 町会が解散した地域の安全を担保するために、町会に代わり防犯灯を維持管理していく仕組みを構築すべきだがどうか。

A 持続可能な防犯灯の仕組みづくりに向け、他市事例も参考とし、地域の意見を聞きながら検討する。

TKB48とは

避難所の二次健康被害ゼロを目指し、T（トイレ）K（キッチン）B（ベッド）を48時間以内に設置し、被災者が安心して滞在できる環境を確保すること。

日本共産党
越智 妙子



学校給食の恒久的な
無償化を早急に！

Q 学校給食の恒久的無償化に踏み切るべきだがどうか。

A 財源確保に最大限の努力が必要であり、国の動向を注視しながら財政状況を鑑みて検討していく。

Q 小学校の給食数はピーク時に比べ2万食分減少しており、中学校分も調理できるのではと考える。中学校での必要給食数は。

A 約6600食を調理している。

Q マイナ保険証の利用においては、いまだにトラブルも多く、全国的にも利用率が低い。現行の保険証を残すよう国に声を上げるべきだがどうか。

A トラブル発生時の対応方法の周知徹底など、市長会を通じて国に要望している。

Q 現行の保険証が有効期限まで使用できること、期限が切れた後は資格確認書が自動的に交付されることなど、医療機関等と連携しながら早急に周知すべきだがどうか。

A 様々な広報媒体を活用しながら分かりやすく丁寧な広報に努める。

公明党
前園 正昭



教育と文化の予算は
人と未来を創る予算

Q ディスレクシアの疑いのある児童・生徒を早期療育につなげる必要があると考えるが、市の認識は。

A 学校では校内支援委員会等を中心とした全校的な支援体制により、児童・生徒の実態を早期に、適切に把握し、教育委員会では医療機関や専門機関と連携しながら支援に努めていく。

Q 芸術文化による交流基盤である「やおうえるかむコンズ」の取り組みについて、どのような成果が現れているか。

A コンズの形成主体である人・場所・活動がつながること、芸術文化を活性化させる取り組みを進めており、人々が笑顔で集える場が広がっている。

ディスレクシアとは

学習障害のひとつのタイプとされ、全体的な知的発達に遅れはないが、文字の読み書きに限定した困難がある障害。そのことで学習が遅れ、自信を失い、意欲低下や心身の不調につながることもある。

八尾保守の会
川上 舞



不正な投票の防止へ
より効果的な対策を

Q 全国的になりすまし投票（詐偽投票）について数多く報道されているが、本市においてはどうか。

A 投票所の受付において、生年月日等の確認で本人かどうか疑わしい場合は、本人確認書類の提示をお願いするなど、しっかりと本人確認を行っている。

Q なりすまし投票等の不正な投票に対して予防策はとっているのか。

A 入場整理券に、投票の際には、必ず本人の整理券を持参していただくよう記載している。また、投票所内に、なりすまし投票等を行った場合、処罰の対象となる旨の貼り紙を掲示するなど、投票人に対する注意喚起を行っている。



一人一人の意思を反映させる機会である選挙には、適正な執行が求められる。

その他の質問項目

●地域防災の共助の充実を図るための地域との連携



QRコードから、各議員の質問の映像を見ることが出来ます。

個人質問

Q がん患者の負担軽減につながるアピアランスケアのさらなる周知・啓発を実施するとともに、助成制度を創設すべきと考えるがどうか。

A ホームページの内容の充実をはじめ、地域の医療機関と連携を図りながらアピアランスケアを含め、がんに関する情報の発信に早期に取り組み、助成制度については、がん相談支援センターと連携しながら検討を進める。

Q 市民の安心、地域防災力の強化、自治体間の相互支援等につながるトイレトレーラーを導入すべきかどうか。

A 避難所におけるトイレ環境は災害関連死を防ぐ上で重要であると認識しており、国の動向を注視しながら、他市事例も研究していく。

その他の質問項目

- 障がい児の通学支援
- 保育所入所選考時の療育施設に関する加算点の必要性

日本共産党
田中 裕子
ガイドラインに沿った保育虐待への対応を



ほこみち制度とは

歩行者利便増進道路制度の愛称で、にぎわいのある道路空間創出のための道路を指定する制度のこと。

道路管理者が、歩道の中に歩行者の利便増進を図る空間を定めることで、多様な道路空間の活用が可能となる。

Q 国のガイドラインでは、保育所等において虐待等が行われたと判断した場合、十分な心のケア・保護者に対する丁寧な説明・虐待事案の公表等が必要であると記載されているが、それに沿った対応はできているのか。

A 全保護者対象の説明会を行うよう働きかけているが、実施については園の判断となる。臨床心理士の派遣について現時点では予定していないが、こども総合支援センターで対応したい。また、虐待事案の公表は通常保育への影響も懸念されるため、現時点では考えていない。

Q 虐待の事実が確認された音声データが録音された日の、園内の防犯カメラ映像データが無いと関係者から聞いたが、事実か。

A 現在指導を行っている詳細の確認をしている状況のため答えられない。

無所属
露原 行隆
ほこみち制度の活用地域経済の活性化を



おしえて 議会のコトバ

Q 附帯決議 ってなに？



A 予算や条例などの議案に対して執行上の要望や執行に当たっての希望条件等を意思としてまとめたものです。

法的な拘束力はありませんが、政治的に尊重されるべきものとされています。



本会議で議案質疑がありました

議案質疑とは…
提案された議案に対し、内容や提案理由等について疑問や不明な点を問うことをいいます。

11月29日 日本共産党 田中 裕子
議案第87号「八尾市水道事業の設置等に関する条例等の廃止等の件」

QRコードから、本会議の映像を見ることが出来ます。



ちなみに

12月市議会定例会においては、以下の附帯決議案が提出されました。

- ◆議案第80号「八尾市総合計画後期基本計画を定める件」に対する附帯決議の件
- ◆議案第88号「令和6年度八尾市一般会計第6号補正予算の件」に対する附帯決議の件

提出された議案の内容や結果の一覧はホームページをご覧ください。→→→



公明党
福永 美智子
アピアランスケア
助成制度の創設を



八尾の未来を紡ぐ会
西川 あり
セーフガーディング
考え方の周知は



八尾の未来を紡ぐ会
柴谷 匡哉
部局の垣根を超えた
生活困難者支援を



大阪維新の会
松本 剛
危機感を持った
事務事業の見直しを



DBS とは

子どもに接する仕事に就く人に対して、性犯罪歴を照会することが義務付けられる制度のこと。

セーフガーディングとは

虐待や搾取など子どもの権利に反する行為や危険を防止する安全保護の取り組みのこと。

Q 日本版DBSに関する法整備が進んだが、市のセーフガーディングに対する考え方はどうか。

A セーフガーディングについては、まずは知っていたことが重要であり、子どもの居場所づくり連絡会議などで考え方を紹介していく。また、基準の作成や取り組みについても研究していく。

Q CAP（子どもへの暴力防止プログラム）の成果はどうか。

A 子どもの自己肯定感や自身を守るスキルを向上させるだけでなく、地域の方など第三者の視点が入ること、より具体的な子どもの心の声を聴き取り、いじめや虐待の早期発見につながっていると認識している。

Q 本市の狂犬病予防接種の接種率は全国的に見ても低く、免疫学上狂犬病の蔓延を防ぐ事が出来るとされている「接種率70%以上」を達成する対策を講じるべきと考えるがどうか。

A 毎年、接種率70%以上を達成することを目標に、接種率向上に積極的に努めていく。

Q 医療的ケア児等コーディネーターの未配置など、立ち遅れている取り組みについて、支援体制を構築すべきと考えるがどうか。

A 現在、医療的ケア児等コーディネーターの配置に至っていないのは事実であり、支援体制の強化について早急かつ積極的に取り組みを進めていく。

Q パーソナル・サポート事業については、部局の垣根を越え、ワンストップの支援体制を構築すべきと考えるがどうか。

A 市民が利用しやすい、効果的な事業運営について、部局連携を図り、検討を進めていく。

Q 財政状況の悪化を危機感を持って受け止め、物価高騰対策をはじめとした市民ニーズに応える事業を行う財源を確保するため、早急に抜本的な対策を講じる必要があると考えるがどうか。

A 非常に厳しい財政状況にあることから、事業費の増加に対しては既存事業の見直し等による財源捻出に取り組んでいる。

Q 市の魅力増進に向け、新たな事業を行う際に、既存事業のスクラップを行う余地はあるのか。

A 見直しを行うことなく依然として続いている事業があると考えており、他市比較等も行いながら、今後も本市を発展させていくため、効率的に新たな事業に取り組んでいくための財源をしっかりと確保することが必要と考える。

その他の質問項目

- 全職員が危機感と責任感を持って業務を担うための今後の人事行政